

株式会社 日新 (証券コード9066)

2015年3月期 決算説明会

営業利益 連続2桁増益達成
中期経営計画を1年前倒しで達成へ
自動車部品物流は好調持続



2015年5月22日



前回決算説明会の計画方針は、好調に推移

2015年3月期第2四半期決算説明会
(2014年11月21日開催)
におけるメインメッセージ



前回お伝えした内容は、概ね好調に推移
今回お伝えしたい内容

1

第5次中期経営計画 最終年度
の目標を1年前倒し

2

自動車物流は引き続き好調

3

アジアへの積極投資を実施

4

国内危険品業務は、
2015年度下期以降で
業績寄与

目次

- 2015年3月期実績 P4.
- 2016年3月期の見通し P11.
- 第5次中期経営計画の見通し P16.

2015年3月期実績 ～ 增收増益 ～

2015年3月期決算ハイライト

前期比
増収・営業増益

営業利益
15%増

- 自動車部品物流が好調に推移
- 当期利益の減少は、特別損失計上

日本は
航空輸出・化学品が
順調

航空輸出
重量
11%増

- 日本は海上輸入が伸び悩むも、航空輸出・化学品に加え関係会社も順調に推移

引き続き
自動車部品物流に
注力

売上
アジア22%増
米州26%増

- アジア・米州における自動車部品物流に引き続き注力

2015年3月期決算 サマリー

- 自動車部品物流が好調に推移
- 化学品輸出および保管業務が好調に推移
- 下期は北米西岸港湾の混乱を受け航空輸出が好調に推移
- 営業利益は前期比15.4%増、当期利益の減少は、特別損失を計上

(単位: 百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期				
		当初計画 (2014.5.8)	修正計画 (2014.8.6)	実績	修正計画比	前期比
売上高	193,709	198,000	198,000	204,461	3.3%	5.6%
営業利益	4,042	4,400	4,400	4,664	6.0%	15.4%
経常利益	4,681	4,700	4,700	5,135	9.3%	9.7%
当期利益	2,624	2,900	2,150	2,447	13.8%	▲6.7%

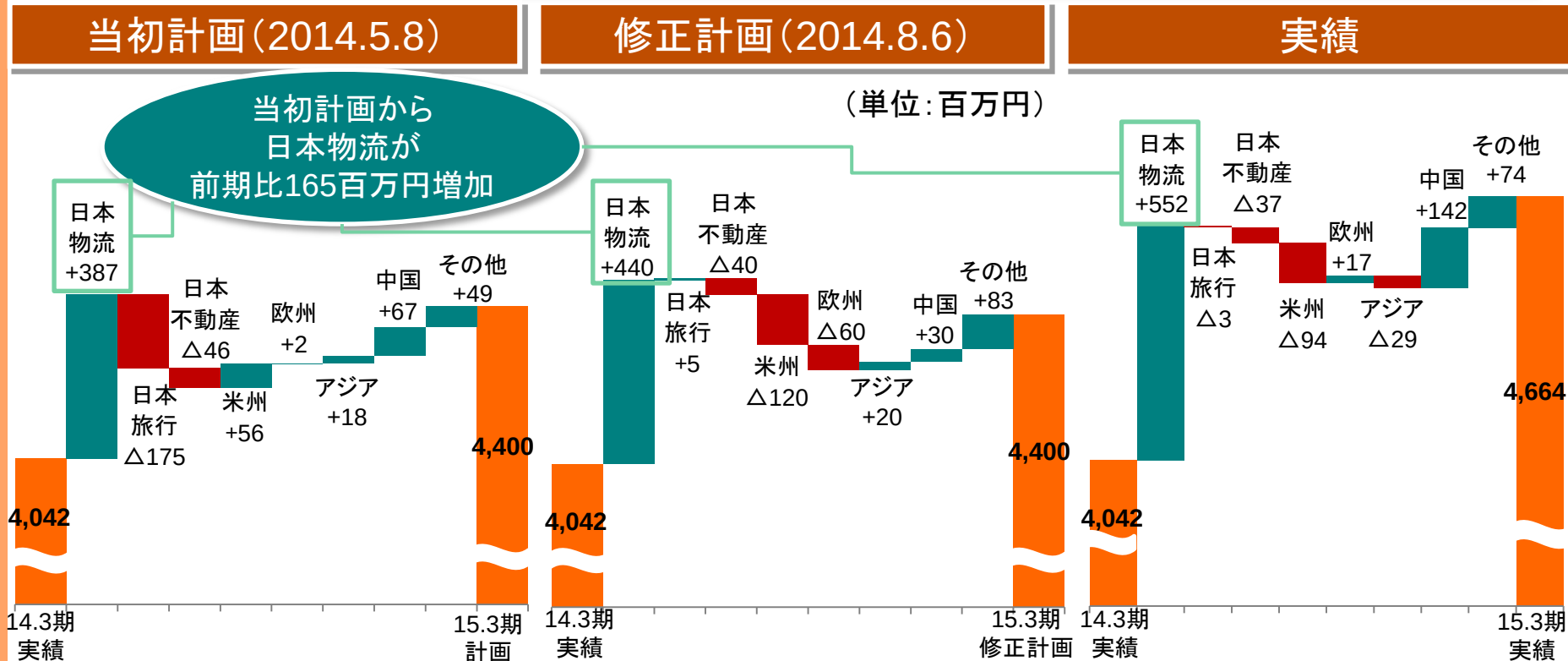
売上高(単体)の項目分析 物量・輸出・輸入の傾向

■ 輸入は航空・海上とも円安の影響等で減少するも、輸出は航空・海上とも売上増

輸出		輸入	
物量(TON)	売上	件数	売上
			
前年比11%増	前年比15%増	前年比6%減	前年比11%減
円安の影響、自動車関連好調、北米西岸港湾混乱		円安の影響、北米発の生鮮等低調	
物量(TEU)	売上	物量(TEU)	売上
			
前年比2%減	前年比2%増	前年比7%減	前年比2%減
北米西岸港湾混乱	円安による海上運賃の収受額の増加	円安の影響もあり全体的に低迷	

2015年3月期 地域別実績(営業利益)

■ 日本物流は人件費・経費削減効果で利益押し上げ、航空輸出が北米西岸港湾混乱の影響もあり好調



日本物流	人件費・経費削減効果で利益押し上げ、航空輸出が北米西岸港湾混乱の影響もあり好調
日本旅行・不動産	日本旅行は競争激化による値下げ、日本不動産は賃貸物件修繕費増
米州・欧州	米州は年初の寒波による生鮮品の荷動き停滞響く、欧州は業務効率化
アジア	前年度好調の反動減およびインドの受注単価値下げによる低迷
中国	電機電子を中心に好調

日本物流における各施策の取組み状況(単体・営業利益)

- 修正計画発表後、自動車は計画線で推移。その他、港湾運送関連、化学品関連の案件を取り込み計画上振れ

		修正計画(前同比) (単位:百万円)					
①自動車関連		上期実績	下期計画	下期実績	通期計画	通期実績	下期取組
	北米・中国向け部品輸送の堅調な推移	△10	△10	△10	△20	△20	北米・中国向け輸出堅調、アジア向け回復
	日本着部品輸入の取扱増加						輸出入完成車低調
②港湾運送・倉庫							
	中国船社他の大型船化によるターミナルでのコンテナ取扱拡大	+50	+20	+40	+70	+90	中国船社業務は堅調
	ターミナル業務の人員配置効率化						プラント中心に輸出が好調に推移
	倉庫の集約による業務効率化						
③その他							
海上輸入	製材輸入の堅調な推移と合板の取扱回復	△40	+60	+40	+20	±0	製材・合板回復遅れ
	日用品輸入の取扱増加						後半回復
	食品輸入の取扱回復						堅調に推移
化学品関連	潤滑油、添加剤の輸出取扱増加	+40	+50	+70	+90	+110	好調に推移
	化学品生産の回復による取扱増加						
航空輸送	輸入取扱増加(食品、花卉、アパレル等)	+60	+80	+100	+140	+160	北米西岸港湾混乱の影響により物量増
	混載効率の改善						

各重点施策の進捗(2015年3月期)

3つの重点施策	具体的取組み	利益寄与開始 (前回)	進捗状況	
1. 海外事業の強化	クロスボーダー輸送 - タイ(バンコク)・マレーシア(マラッカ)間 - 米国(LA)・メキシコ(グアダラハラ)間	上期～	タイ(バンコク)・マレーシア(マラッカ)間	○
			米国(LA)・メキシコ(グアダラハラ)間	△
	タイ・プラチンブリ自動車部品用倉庫開設	上期～	○	
	無錫保税區でのスマホ関連部材保管・配送業務	下期～	△ 2015年度下期	
2. 国内事業の再構築	インドネシア新倉庫会社の連結化	下期～	○	
	神戸港ターミナル活用 輸出用中古建機・自動車置場	下期～	○	
	蘭ISOタンクコンテナオペレーター「デン・ハート社」と総代理店契約締結、業務開始	下期～	△ 2015年度下期	
	名古屋発危険品海上混載輸送サービス	下期～	○	
3. 経営基盤の強化	業務効率化推進 — 人件費・経費削減	下期～	○	

2016年3月期の見通し 営業利益前期比15.8% 増益を目指す

～ 第5次中計の1年前倒し達成へ～

2016年3月期決算 計画の前提

地域別の動向 顧客別の動向	アジア	米州 (アメリカ、メキシコ)	中国	日本
自動車関連	▲ アジア発の部品輸出順調	▲ 部品物流好調 ▲ 米中西部好調 ▲ メキシコ拠点増設 ▲ アメリカ・メキシコ間輸送拡大		▲ 完成車輸出入拡大 ▲ 新規顧客取扱拡大 ▲ 部品輸入増加
化学品関連	▲ 潤滑油輸出好調			▲ 潤滑油輸出好調継続 ▲ ISOタンクコンテナ取扱本格化
その他		▲ 食品関連輸出増加	▲ 日中貿易回復基調 ▲ DC業務増加 ▼ 中国経済減速懸念継続	▲ 南本牧ターミナルでの取扱拡大 ▲ 中国船の取扱物量増加

為替 1\$=¥120.17、EUR=¥130.32 (2015年3月31日現在)

【為替換算差(営業利益段階)】 米ドル、ユーロは1円の変動で、17百万円の影響

2016年3月期 通期計画

- 営業利益は、自動車関連物流の好調を背景に、前期比15.8%増益、3年連続の2桁増益を目指す
- 第5次中期経営計画の最終年度の目標数値を1年前倒しで達成見込み

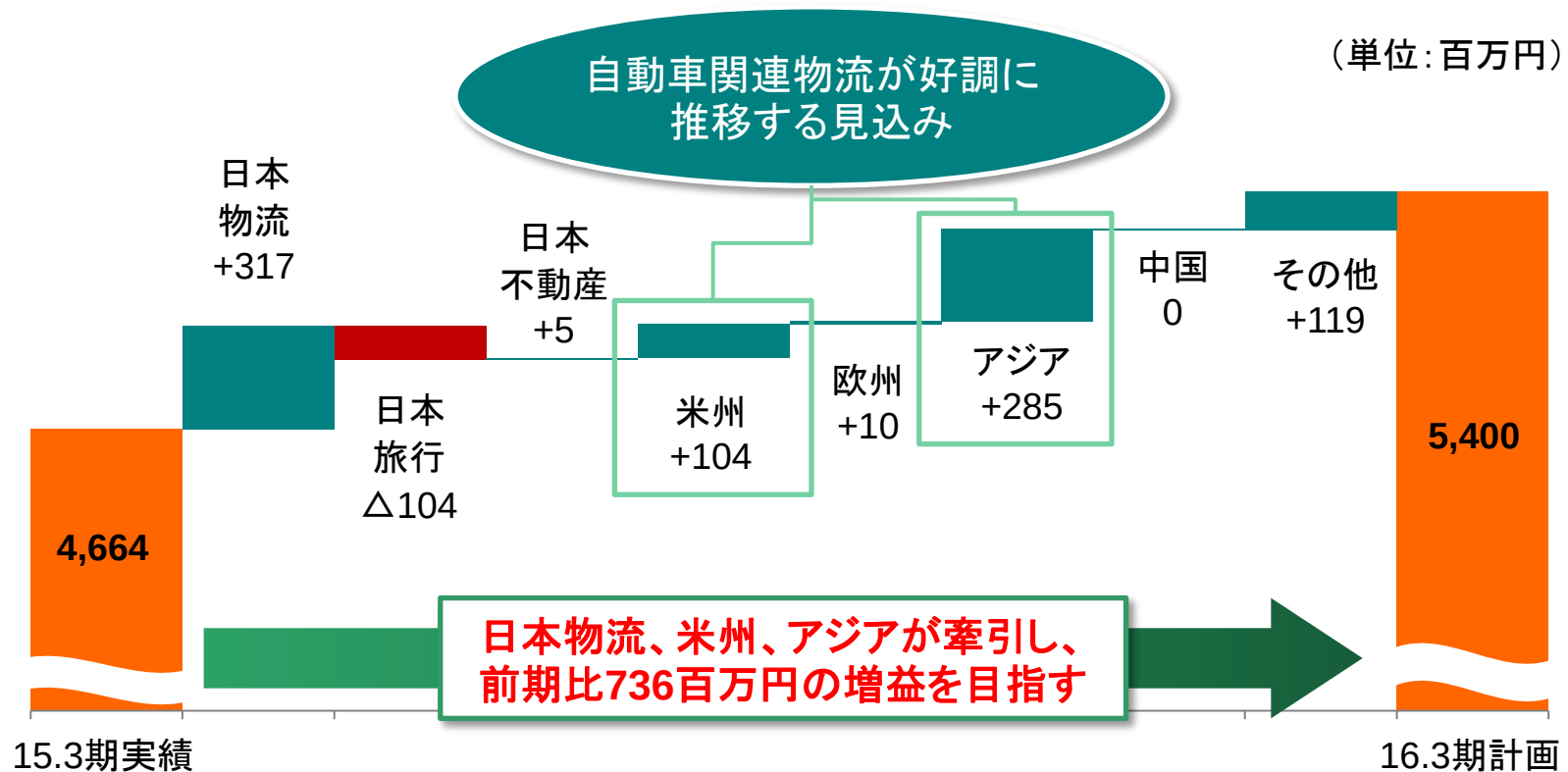
(単位: 百万円)

	2014年3月期 実績	2015年3月期 実績	2016年3月期 計画	前期比
売上高	193,709	204,461	213,000	4.2%
営業利益	4,042	4,664	5,400	15.8%
経常利益	4,681	5,135	5,600	9.0%
当期利益	2,624	2,447	2,600	6.2%

※英国子会社が加入している、確定給付型企业年金からの脱退一時金を特別損失として見込む

2016年3月期 地域別通期計画(営業利益)

(単位:百万円)



日本	日本物流は完成車の輸出入業務拡大、日本旅行は円安による現地コスト増
米州	自動車好調、新規顧客獲得(エアコン関連保管業務等)、食品関連輸出増加
欧州	自動車関連業務拡大、新規顧客獲得(家具関連保管業務等)
アジア	自動車好調、生活関連原材料好調、インドネシア日新をフル連結化予定
中国	電気電子関連堅調、前年並み

2016年3月期の重点施策

重点施策	具体的取組み
海外事業	米国中西部の部品保管の取扱拡大
	新規顧客の取り込みによる裾野の拡大
	重点地域 タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、インド、米国、メキシコ、中国
国内事業	完成車の輸出入業務の拡大
	食品、医療、危険品業務の拡大
	陸上輸送業務の効率化への取組み
経営基盤	海外人材育成
	老朽施設、遊休資産の有効活用に向けた取組み
	監査等委員会設置会社への移行によるガバナンス体制の強化

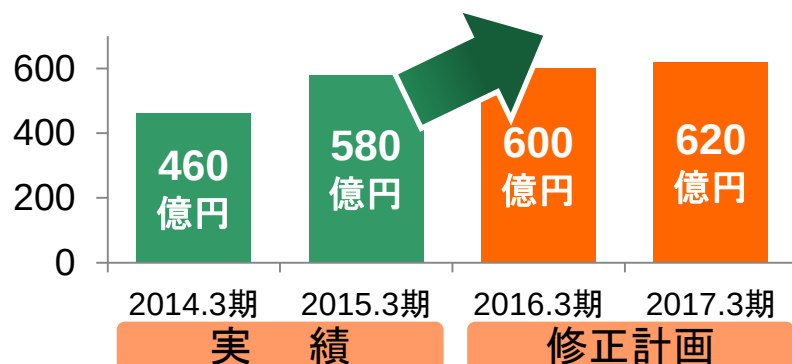
第5次中期経営計画の 見通し

～ 当初の最終目標を上方修正 ～

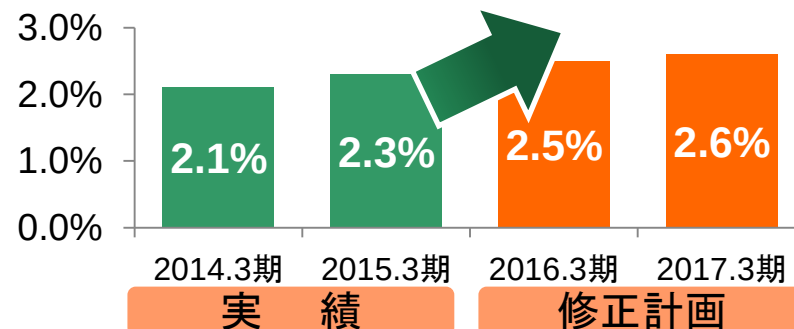
第5次中期経営計画

■ 最終年度の目標数値を上方修正

海外現地法人の売上高拡大



連結営業利益率の改善



第5次中期経営計画

(単位: 百万円)

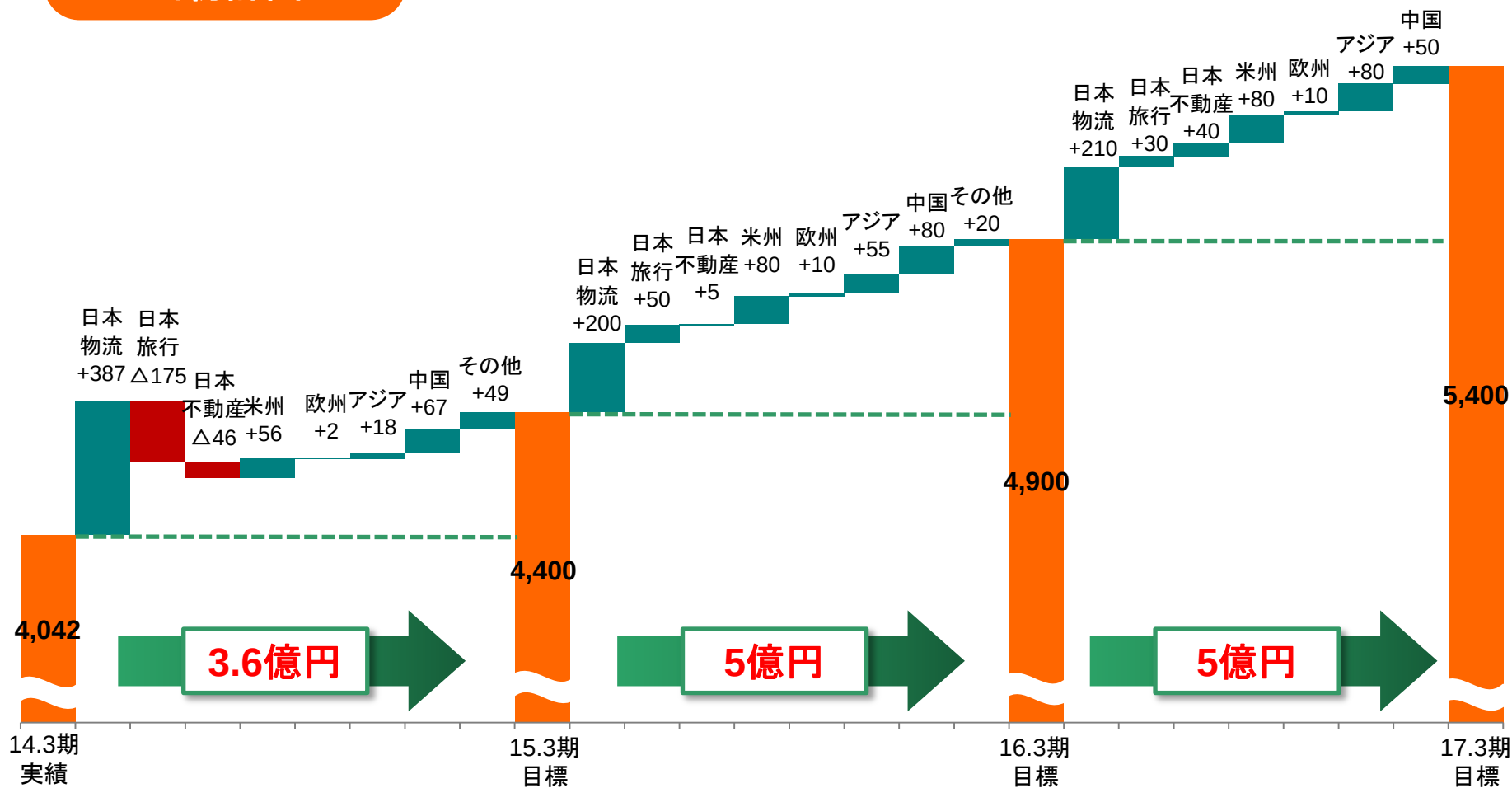
	2014年3月期 実績	第5次中期経営計画			
		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	
		実績	修正計画	修正計画	2014年3月期比
売上高	193,709	204,461	213,000	220,000	13.6%
営業利益	4,042	4,664	5,400	5,800	43.5%
経常利益	4,681	5,135	5,600	6,000	28.2%
当期純利益	2,624	2,447	2,600	4,000	52.4%
営業利益率	2.1%	2.3%	2.5%	2.6%	—
ROE	6.1%	5.1%	5.1%	7.5%	—

(当初計画)第5次中期経営計画3力年の推移

■ 当初計画では、中期経営計画最終年度(17.3期)にて、営業利益54億円の達成を目指す

当初計画

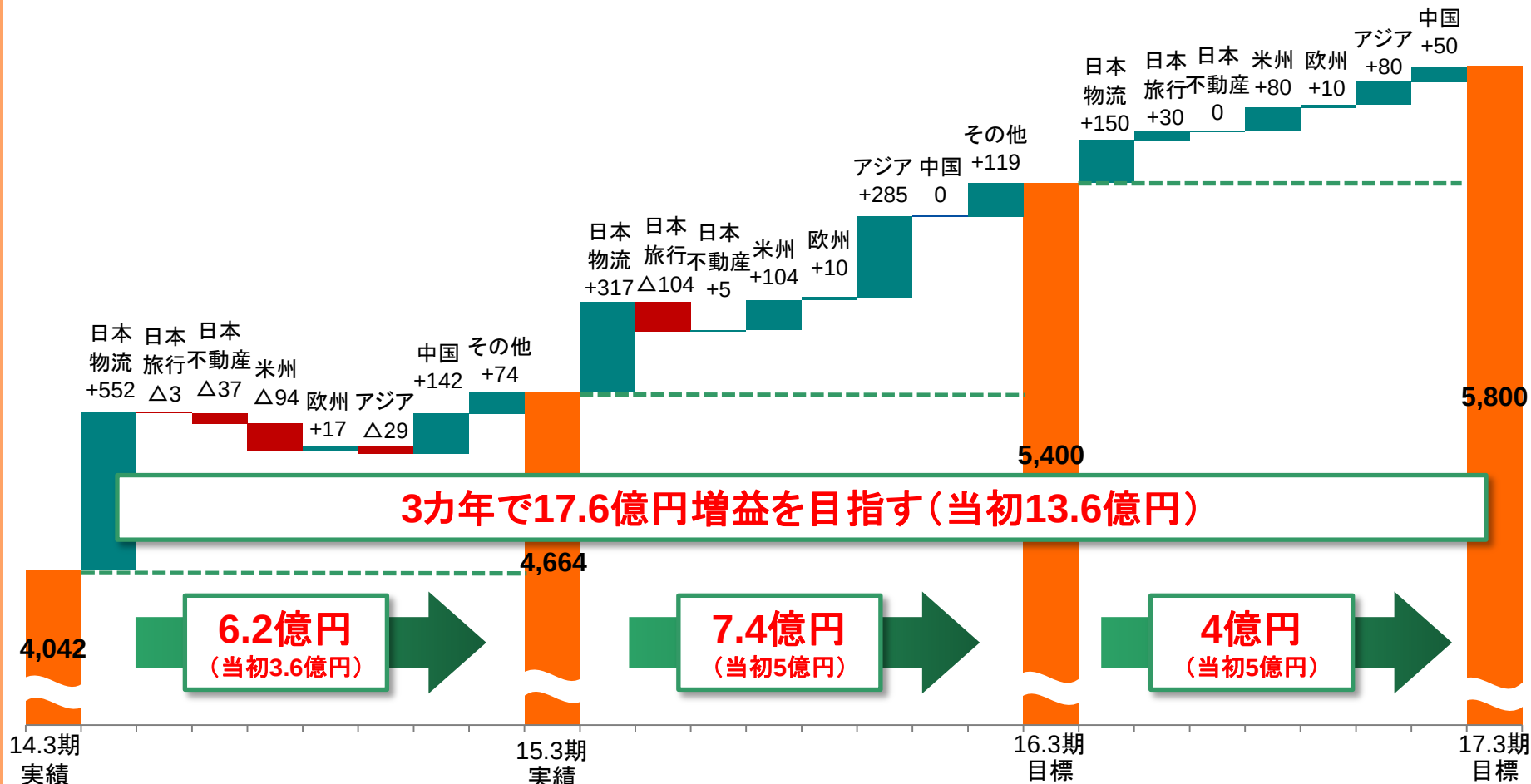
(単位:百万円)



(修正計画)第5次中期経営計画3力年の推移

■ 今回、中期経営計画最終年度の営業利益を4億円上積み、58億円の達成に上方修正

(単位: 百万円)



中期経営計画を前倒し、上方修正に向けての取り組み

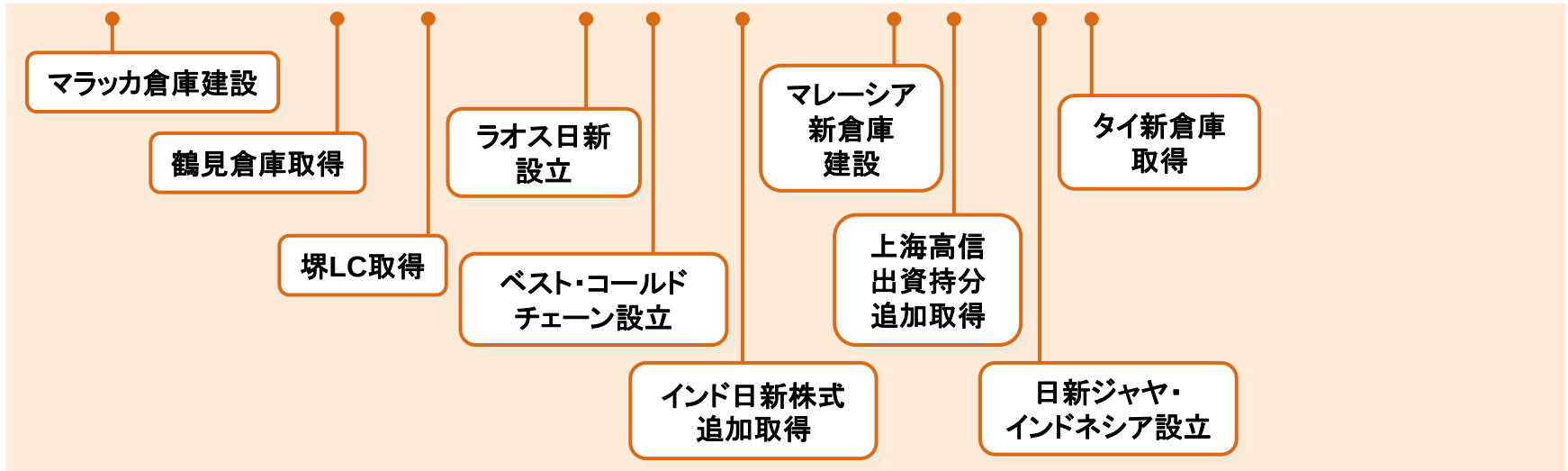
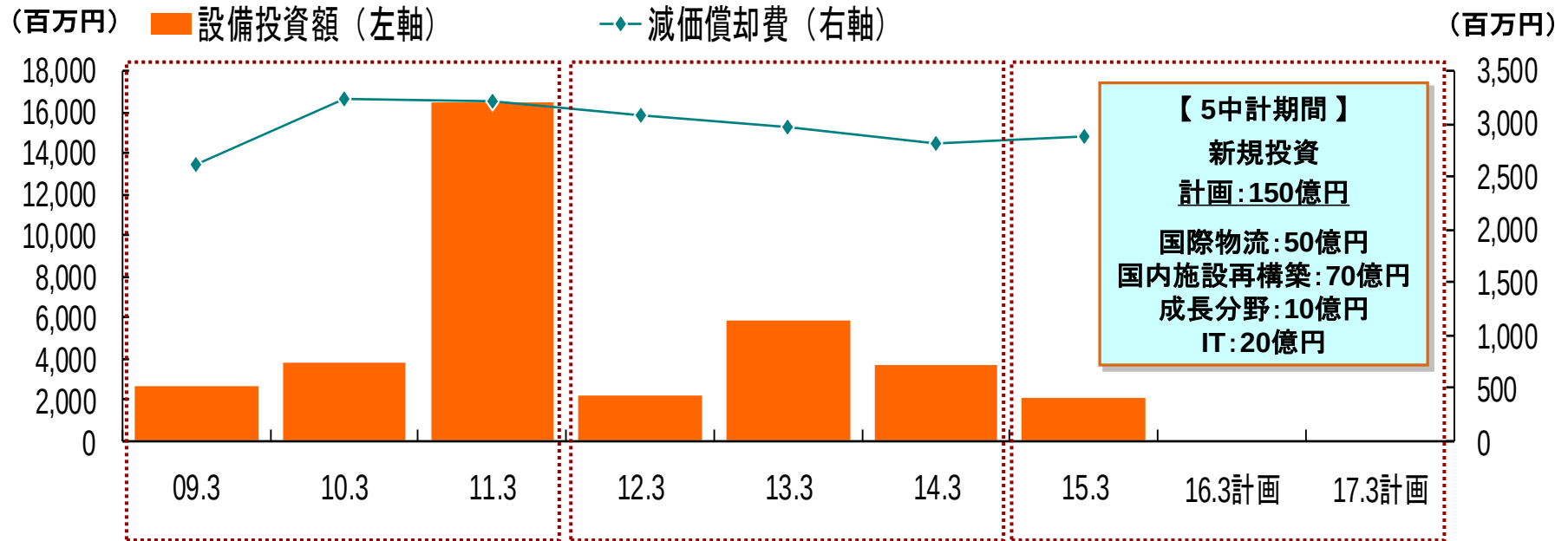
■ 海外事業の強化・拡大 — 自動車関連物流を軸に展開加速

No	項目	具体的内容	備考
①	定量目標	・自動車関連事業の収入、中計最終年度目標は2013年度比130%の達成	
②	施策	・重点地域(タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、インド、米国、メキシコ、中国)での営業強化 ・完成車輸出入業務取扱拡大 ・IT拡充による効率的なグローバル営業体制の強化 ・研究所関連物流拡大	
③	スケジュール	・収入:2014年度112%達成、2015年度122%、2016年度130%	

第5次中期経営計画 ～ 重点施策の進捗 ～

3つの重点施策	具体的取組み	前回	今回
1. 海外事業の強化	米国オハイオでの自動車部品倉庫増設	2015年度上期	稼働済み
	メキシコ中部におけるミルクラン輸送	2015年度下期	検討中
	インドネシア日新のフル連結化	—	2015年度上期
2. 国内事業の再構築	鶴見倉庫 危険品倉庫増設	2015年度下期	取止め
	梱包工場の取扱能力増強	2017年度以降	2017年度以降
3. 経営基盤の強化	横浜本社ビル再開発 — 賃料コスト削減	2016年度以降	2017年度以降
	北仲通北地区再開発	2017年度以降	2017年度以降

投資および減価償却費の推移



本日のまとめ

2015年3月期決算は、
増収・営業増益

自動車部品物流が好調に推移し、営業利益は前期比
15.4%増を達成

中期経営計画
1年前倒し

最終年度の2017年3月期営業利益を1年前倒し、
今年度達成を目指す
3年目の目標も売上・利益とも上方修正

自動車関連物流
の基盤強化

自動車関連事業収入2013年度比130%を目指す
重点地域：タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、
インド、米国、メキシコ、中国